

東京社保協ニュース

ホームページ <http://www.tokyo-syahokyo.net/>

N0203号 2010年6月1日 発行

今月の記事

- 1頁 社保協結成40周年レセプション
- 2頁 第37回東京社保学校
- 3頁 生存権裁判で不当判決、介護フォーラム
- 4頁 板橋社保協50周年、西武沿線社保協交流会

東京社会保障推進協議会(東京社保協)
〒170-0005 豊島区南大塚2丁目33番10号
東京労働会館6階
TEL 03-5395-3165 FAX 03-3946-6823

みなさんと共に
あゆんで

社保協結成40周年

「50年経たぬ信念 次世代」

懐かしい顔と再会、記念レセプション開催



東京社保協は、1970年に再結成され、今年40周年を迎え、5月22日に13団体と20の地域社保協、来賓など84人が参加して記念レセプションを開催しました。

竹崎会長の主催者あいさつに続いて中央社保協山口事務局長、吉田信夫日本共産党

写真右・開会あいさつする竹崎会長、写真左・村林前会長

下の写真・乾杯の音頭をとる平山副会長、上段右から光永元事務局長、山口中央社保協事務局長、吉田都議会議員、下段右から佐々木神奈川社保協事務局長、朝日清瀬社保協会長、福井典子副会長

都議団幹事長、佐々木滋神奈川社保協事務局長より連帯とお祝いのあいさつが述べられました。

平山副会長の乾杯についで都障教組のバンド『ボラチー』によるフォルクロレの演奏。前会長の村林先生、元事務局長の光永さんをはじめ東京社保協の運動を支えとも活動をすすめてきた各団体



「福祉社会の都民の運動をすすめた」

99年に知事に就任した石原は「贅沢といえば福祉」と次々切り捨てて実行。私たちは「1万人の人間の鎖」(00年12月)、「都庁前座り込み」(01年3月)など運動を展開しました。(30周年)40周年への歩みから



ボラチーの演奏

石原都政による福祉切り捨てに抗しての都庁前での座り込みや人間の鎖、介護相談員養成講座、社

の方から40年間のお祝いのごあいさつをいただきました。

保学校などおもにこの10年間を中心に写真でふり返り、社保協が掲げる「いのちを守れ」の大運動に改めて確信を持ち、これからの運動への決意をため、懐かしい顔との再会で交流を深めました。最後に福井典子副会長の閉会あいさつでレセプションは終了しました。

生存権裁判 不当判決 東京高裁



5月27日、東京高裁で生存権保護の老齢加算廃止は違

憲だと訴えた「東京生存権裁判」の高裁判決が言い渡され、宣伝・傍聴・報告集会などの行動に190人が参加しました。東京高裁は東京地裁に続き、国の言い分を承認する「不当判決」を言い渡しました。原告団・弁護士・支える会は「速やかに上告し、憲法が保障する生存権を守るため全力でたたかう」とする声明を発表しました。



高裁判決は「最低限度の生活基準は厚生労働大臣の判断」として政治の責任に踏み込まない態度を示しながら、加算廃止については「国の財政状態を考えれば止むを得ない」と政治的な減額を容認しています。食事や近所付き合いを減らすなどの原告の生活実態を無視して「低所得層の生活として社会的に是認できる範囲内」と原告らの訴えを切り捨てました。

判決言い渡し後、原告・弁護士団・支える会は記者会見を開き、厚労省に老齢加算を復活するよう申し入れました。報告集会では原告から「裁判をたたかう中で運動は広がり、母子加算は勝ち取った。私たちは勝っている、前進している。最後までがんばる」などの決意が語られ、参加者は「この悔しさを力に変えよう」と雨上がりの空に誓い合いました。

後期医療制度「いまずぐ廃止」の声とどける

通常国会終盤の5月26日、国民大運動実行委員会主催で昼休み集会と午後から中央社保協の集会が開催され、激励に駆けつけた日本共産党の小池晃参院議員に参加者を代表して福井典子副会長が署名を手渡し、私たちの願いを託しました。

東京社保協の集約数は合計で後期高齢者医療制度廃止を求める署名89万3230筆、介護保険充実を求める署名15万9180筆に到達、各団体や地域社保協のみなさんによる連日にわたる奮闘の結果です。本当にありがとうございます。引き



続き廃止まで運動を広げてください。きましよう。

米軍普天間基地 撤去で知事に要請

5月25日、石原都知事に対し、「石原都知事の『沖繩の人に我慢してもらおう』」（5月24日記者会見）発言に対する抗議行動として取り組み

ました。「少なくとも県外」と公約した政府に対し、最後まで基地撤去を求めて、たたか

いやすめていきましょう。この行動は東京社保協が呼びかけ、都民連・東京民医連・東京原水協の4団体が参加しました。（要請文はHPにアップしてあります）

5月23日「介護をよくする東京の会」主催で「2010介護フォーラム」を開

催、利用者・家族、都内外の介護事業者・労働者80人が参加しました。立命館大学小川栄二教授は「介護保険10年—in宅サービスと利用者」に焦点を当てて「で制度発足後の公的責任の後退の実態を示し、今後の課題として「住民主権と住民共同をもとにした新しい福祉国

介護保険10年

「これからの介護を考える」2010年介護フォーラム

「介護保険の抜本改正で安心の介護を実現しよう！」の集会アピールを採択し終



家づく「り」を強調しました。シンポジウムは、小川教授をコーディネーターとして、

板橋社保協結成50周年 90人参加でレセプション開催



西川板橋社保協会長

5月15日、板橋文化会館

大会議室で「板橋社保協結成50周年レセプション」が、区長代理、板橋区社会福祉協議会、自民、民主、共産の区議会、都議会議員、衆議院議員、北、練馬、文京の地域社保協など90人が出席して開催されました。

主催者あいさつで西川会長は「3月に上映した映画『いのちの山河』は、自治体と住民が共同して様々な問題を解決してきたことは、社会保障運動の原点であり、そこにこそ感動を呼んでいる」と語り、社保協運動の基本的な姿勢を強調しました。

東京社保協から前沢事務局長が「東京社保協の先進的な役割を果たしている」と



述べ、北社保協の乾事務局長と区長代理の寺西課長から連帯とお祝いのことが述べられました。

前島副会長の乾杯の後、さらにお祝いのあいさつが続きました。

いずれも、社会保障の充実で50年間取り組んできたことへの驚きと称賛の言葉をいただき、50年のたまたかいの重みを感じられるレセプション

となりました。アトラクションは津軽三味線の「西はじめ」さん。力強い三味線の音色と津軽の人々の思いを伝えるすばらしい演奏をいただきました。

会では出席の41団体と個人がそれぞれ紹介され交流を深めました。

最後に木村副会長の閉会あいさつでレセプションは盛況に終わりました。(板橋社保協会長・西川勉)

多摩北部社保協の交流会は、村山大和・東村山・清瀬・東久留米・小平・西東京の各社保協が参加し、2か月に1回、すでに7回開きました。

今まで各市の特定健診の状況を比較したり、広域連合議員の多羅尾治子さん

(稲城市議)を招いて後期高齢者医療制度と広域連合について学習会を開催してきました。

5月11日に西東京市

西東京市 市課長 西川 課長

国保と後期医療制度で懇談

西武沿線 社保協交流会

5月11日

懇談会では、社保協から、①国民健康保険料の収納、滞納の経年的な状況、②短期保険証、資格証明書の発行

期高齢者医療制度の廃止して老健制度に戻すことについて質問しました。6月には「医療保険の一元化の動き、建設国保への攻撃」の学習交流会を開催します。

保険年金課長と約2時間わたって懇談し、国民健康保険、後期医療制度について、交流学習会を開きました。と今後について、

「地方自治体の財源だけで国保の赤字を埋めることは限界にきている。国庫負担を増やさなければならぬのではないか」などの話があり

6月一当面の行動、予定

- 1日 (火) 第2回定例都議会開会日
- 2日 (水) 中央社保協運営委員会
- 4日 (金) 巣鴨地藏通り商店街入り口
午後1時～2時
- 8日 (火) 都議会代表質問
- 9日 (水) 都議会一般質問
- 11～12日 (土) 中央社保協総会
(於：越後湯沢)
- 16日 (水) 都議会閉会、国会閉会
- 24日 (木) 第7回常任幹事会
午後1時半より
参議院選挙公示 (予定)
投票日：7月11日 (予定)